



2026 年 7 月 15 日

各 位

会 社 名 Hm c o mm株式会社
代表者名 代表取締役社長 CEO 三本 幸司
(コード：265A、東証グロース市場)
問合せ先 取締役常務執行役員 CFO 土屋 学
(TEL. 03-6550-9830)

2026 年 12 月期第 2 四半期（中間期）業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2026 年 7 月 15 日開催の取締役会において、以下のとおり、最近の業績の動向等を踏まえ、2026 年 2 月 13 日に公表した 2026 年 12 月期第 2 四半期（中間期）の業績予想を下記の通り修正することといたしましたので、お知らせいたします。

1. 2026 年 12 月期第 2 四半期（中間期）業績予想数値の修正（2026 年 1 月 1 日～2026 年 6 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1 株当たり 中間純利益
前回発表予想（A） （2026 年 2 月 13 日発表）	百万円 611	百万円 ▲29	百万円 ▲40	百万円 ▲43	円 銭 ▲10.8
今回修正予想（B）	624	2	5	▲20	▲5.0
増 減 額（B－A）	12	31	45	23	—
増 減 率（ % ）	2.1%	—	—	—	—
（参考）前期実績 （2025 年 12 月期第 2 四半期）	439	▲36	▲36	▲29	▲7.2

2. 修正の理由

2026 年 12 月期第 2 四半期累計期間における売上高は、音声 AI・生成 AI・異音検知を中心とする既存事業が概ね計画通りに推移したことにより、当初想定範囲内で着地する見込みです。

一方、利益面につきましては、FDE（Forward Deployed Engineering）モデルの展開による生成 AI・音声 AI 案件の獲得拡大および利益率改善、AI 駆動開発（自社統合開発環境：Flexibility Design X-Transformation / Expedition）（以下、FD-X）の全社導入による開発生産性向上および案件採算性の改善、ならびに AI 本社構想（Next-Headquarters AI-driven Navigator for Administration）（以下、NaNa）の推進による本社業務の効率化を通じた販売費及び一般管理費の適正化が進展したことにより、営業利益、経常利益および中間純利益が前回発表予想を上回る見込みとなりました。

主な要因は以下のとおりです。

（1）FDE モデルの展開による生成 AI・音声 AI 案件の獲得拡大および利益率改善

当社は、音声 AI・生成 AI 領域において、顧客課題の整理から要件定義、実装、運用定着までを一気通貫で支援する独自の開発・導入モデルである FDE の展開を進めてまいりました。これにより、顧客業務に深く入り込む形で提案が可能となり、生成 AI・音声 AI 関連案件の獲得が進展するとともに、相対的に収益性の高い案件の比率が上昇いたしました。加えて、案件初期段階から収益性を意識した提案設計および開発計画の最適化を進めた結果、売上高が概ね計画通りに推移する中でも、営業利益は当初想定を上回る見込みとなりました。

(2) AI 駆動開発（自社統合開発環境：「FD-X」）の全社導入による開發生産性向上および案件採算性の改善
当社は、音声 AI・生成 AI 関連案件の開発・導入において、生成 AI を活用した AI 駆動開発を全社的に推進するとともに、その基盤となる自社統合開発環境「FD-X」の活用を進めてまいりました。FD-X を通じて、要件定義、設計、実装、テスト、ドキュメント整備等の各工程における標準化および業務効率化を進めたことにより、案件ごとの開発工数および導入工数の最適化が進み、案件採算性が改善し、売上原価率は当初想定を下回る見込みとなりました。

また、案件対応のスピード向上や開発プロセスの標準化の進展により、同一人員体制における対応可能案件数の拡大や不採算化リスクの抑制にもつながっており、第 2 四半期累計期間の利益改善に寄与しております。

(3) AI 本社構想（NaNa）の推進による本社業務の効率化および販売費及び一般管理費の適正化

当社は、AI 駆動企業への転換を目的とする全社横断プロジェクト「AI 本社構想（NaNa）」を推進しており、本社業務・管理業務・営業支援業務等において、生成 AI の活用を前提とした業務プロセスの見直しを進めてまいりました。具体的には、文書作成、調査、資料作成、要約、各種定型業務等の領域において、生成 AI ツールの活用を進めることで業務効率化を図り、業務運営体制の最適化および外部委託費等の抑制を進めております。これにより、販売費及び一般管理費は当初想定を下回る見込みとなりました。なお、当該取り組みは継続的に拡張を進めている段階にありますが、上期においても一定の費用効率改善効果が顕在化しており、第 2 四半期累計期間の利益改善に寄与しております。

以上の結果、第 2 四半期累計期間においては中間純損失の計上を見込むものの、損失額は当初想定から縮小する見込みであり、上期における収益性は着実に改善しております。なお、当第 2 四半期累計期間においては、コラボテクノ株式会社の買収に伴う各種関連費用（M&A 一時費用）を一定程度計上しておりますが、上述した既存事業における構造改革および各施策（FDE モデルの進展、FD-X の全社導入、NaNa の推進）による収益性改善効果が、これらの費用を吸収したうえで、利益は前回発表予想を上回る見込みとなりました。

3. 今後の見通し

当社は、音声 AI・生成 AI・異音検知を中核とする事業ポートフォリオの拡大に加え、案件創出から開発・導入・運用までの一連のプロセス見直しを進めております。今回の利益改善は、単なる売上計上時期の変動によるものではなく、案件構成の改善、開發生産性の向上、原価率の抑制および本社業務の効率化等、当社の「収益構造の改革」が反映されたものと認識しております。

下期においては、既存事業における収益拡大に加え、コラボテクノ株式会社との連携を通じた提案力・開発実装力の強化により、案件獲得機会の拡大および収益性向上を図ってまいります。また、中長期的な成長戦略として当社が推進する「Voice AI Agent Platform 構想」の実現に向け、音声 AI・生成 AI 関連技術の研究開発投資を継続するとともに、事業基盤強化および事業拡大に向けた各種成長投資（インオーガニック投資を含む）についても機動的に検討・実行してまいります。当社は、上期に確認できた収益性改善の動きを下期の売上成長および利益拡大につなげつつ、中長期の成長に向けた投資との両立を図ってまいります。

4. 通期業績予想について

上期における利益改善の進捗は、通期業績予想の達成に向けて順調に推移しております。一方で、下期においては案件の受注・売上計上時期や案件構成に加え、コラボテクノ株式会社の連結組み入れに伴う業績影響、中長期的な成長に向けた研究開発投資、事業基盤強化および事業拡大に向けた各種成長投資（インオーガニック投資を含む）の実行可能性も含めて総合的に精査していることから、2026 年 12 月期通期の連結業績予想につきましては、現時点で精査を進めている段階にあります。今後、これらの影響を踏まえた通期連結業績予想が確定次第、速やかに公表いたします。

（注）上記の業績予想は、現時点における入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は様々な要因により予想値と異なる可能性があります。

以 上